



# 東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃん News



令和6年9月2日発行 第6号  
多摩市聖ヶ丘1-17-1  
電話 042-374-8111  
発行者 校長 西田 良児



## 二学期がスタートするにあたり

校長 西田良児

二学期が始まりました。日中は、まだまだ暑い日が続いていますが、夕刻には虫の音が響きだし、少しずつですが季節の移り変わりを感じるようになりました。

夏休みはいかがお過ごしでしたか。オリンピックやパラリンピック選手の活躍に感動も大きかった今年の夏でしたが、一方では連続した猛暑やゲリラ豪雨、台風等による災害も発生しました。また、地震に関連しこれまでにない注意情報が発表され、不安なお盆の時期を過ごされた方も多かったと思います。これからも予測のつかない出来事が起こるかもしれませんが、そうした変化の目まぐるしい状況の中でも、本校に通う子供たちがそれぞれの持ち味を生かして生きていく力を育むため、引き続き全力を尽くしていきたいと思う次第です。

私たち教員も、この夏休み期間、二学期の準備のための教材準備や自身の専門性や知見をさらに高めるための研修等を行っております。私自身もこの夏いくつか研修に参加してきましたが、かつて受講した研修の中で、世界大会で好成績を残した著名な指導者の話を聞く機会に恵まれたことがありました。その講話で、とても印象的なことを語っていました。

「真心をどのように選手（相手）に伝えるかがとても大切である。しかし、それがなかなか難しいことであり、最後は選手（相手）が自分で決めて行動することが必要だった。」

この内容は、日々子供たちに携わる、私たち教職員にも共通していることがあると受け止めることができました。まず、私たちが考えている気持ちを子供たちにしっかりと伝えられているか、一方で子供たちの気持ちを私たちが受け止められているか。また、子供たち一人一人の実態に応じながら、子供たちが自ら考える力や選択できる力を身につけられているか。さらには、蓄えた力を経験的な活動を通じて相手に伝え、人と関わる力を育むことができているだろうか。私たちのフィールドに落とし込んだ場合にも、同様なことを考えさせられる話でした。

二学期が始まるにあたり、今一度基本に立ち返り、保護者の皆様や地域の皆様と力を合わせ、日々の指導を充実させていきたいと思っております。そして、子供たち一人一人の実態を踏まえ、伝え合う力を育み、体験的な学習活動で子供たちの可能性を地道に追究していくことを目指しながら教育活動を進めてまいります。

今学期も、本校の教育に御理解と御協力よろしくお願い申し上げます。